

# 令和6年度 ATの定着・さらなる活性化に向けた実証事業

## ①ATWS開催成果とATの実績に関する調査(ATWS2023の追跡調査及びATに関する周辺状況調査)

ATWS2023を契機として、北海道・日本の事業者と海外の事業者とのネットワーキングの構築が進んでいるが、その開催効果は明らかとなっていない。今後の北海道におけるATの振興に必要な方策の検討にあたり、その前提としてATWS2023の開催による効果を定量的に把握するため、ATWS2023の追跡調査を実施した。また、ATに関する周辺状況調査として、ATWS2023後に関係機関が実施したセミナーの参加者情報やATTA（Adventure Travel Trade Association）の調査レポートについても調査・分析を実施した。

### ATWS2023の追跡調査の概要

ATWS2023に参加した北海道内（一部事業所を北海道内に置くものを含む）のツアーオペレーター、サプライヤー、ガイド等を対象とし、ATWS2023後、実際に商品化されたツアーの本数や内容（アクティビティの内容・催行期間・催行エリア・金額・参加者の人数や属性等）、受けた問い合わせ内容について調査を実施し、ATWS2023前のツアーの催行・問い合わせ状況と比較・分析することで、ATWS2023の開催により生じた効果を把握した。

- 調査方法 WEB形式又は電子メールによるアンケート
- 調査対象期間 令和5年9月～令和6年7月
- 調査実施時期 令和6年9月～令和7年2月
- 回答件数 20件

### ATWS2023の追跡調査の結果

ATWS2023後にATWS2023での商談相手からATツアーの問い合わせ・成約があったと回答した事業者が約6割、ATWS2023での商談相手以外からATツアーの問い合わせ・成約があったと回答した事業者が半数程度と、必ずしも直ちに全てのATWS参加者の販売増に繋がったわけではなく、ATツアーの成約を増やしていくためには以下のような課題に取り組む必要があることがわかった。

#### 〈ATツアーが販売増に至らなかった理由〉

- ・ガイドにおける課題：インバウンドに対応可能なガイドの絶対数不足と育成の難しさ等
- ・コンテンツにおける課題：アクティビティの安全性確保や高額な賠償保険、コンテンツの情報発信不足等
- ・宿泊施設における課題：ラグジュアリー層に対応したホテルの不足、地方での宿の予約の困難さ、宿泊施設の人手不足等
- ・食事における課題：宗教食や菜食主義への対応時の味や質の改善等
- ・移動における課題：運転手不足、高額なバス料金、移動距離の長さ、運行管理上の制約等

▶人材育成、法的・コンプライアンス面の整備、多様なニーズに応えるコンテンツの磨き上げと情報発信、そして地域間の連携強化といった多角的な取組が不可欠である。

# 令和6年度 ATの定着・さらなる活性化に向けた実証事業

## ①ATWS開催成果とATの実績に関する調査(ATWS2023の追跡調査及びATに関する周辺状況調査)

### ATに関する調査結果等の周辺状況調査の概要と調査結果

#### (1) 北海道内の関係機関によるATセミナー・研修から見えるATの裾野拡大の状況

##### 〈調査概要〉

(公社)北海道観光機構が「令和6年度 地域間プラットフォーム構築に向けたAT受入体制整備事業」により全道6ヶ所(札幌・函館・旭川・網走・中標津・稚内)で開催したセミナー等への参加者の属性からATの裾野拡大の状況調査を実施した。

##### 〈調査結果〉

参加者は行政関係者が高い割合を占めている一方で、ガイド事業者・旅行会社・交通事業者といった観光関連の幅広い事業者が意欲的に参加している。さらに、アウトドアメーカーや大学関係者といった多岐にわたる属性の方が参加しており、ATが既存の観光産業の枠を超え、より広範な分野で関心を集めていることから、ATWS2023以前と比べてATの裾野が着実に拡大していることがわかる。

#### (2) ATTAの調査結果から見えるATDESTINATIONとしての認知度拡大の状況

##### 〈調査概要〉

ATWS2023後12カ月間でATTA(Adventure Travel Trade Association)が調査を実施した「12-MONTH POST-EVENT REPORT」から、ATDESTINATIONとしての北海道・日本の需要拡大の状況を把握した。

##### 〈調査結果〉

ATTAの調査では、回答者の約4割がATWS2023の開催を機に日本での新たな旅程プログラムを開始したと報告があり、日本全体のATツアー増加を示す確かな兆候があった。特にアメリカ市場において具体的なビジネスへと直結していた。

また、日本旅行における新たな目的地として北海道が約4割の回答者から選ばれており、ATWS2023を契機として北海道がATの新しいDESTINATIONとして非常に高い注目を集めていることが分かった。

# 令和6年度 ATの定着・さらなる活性化に向けた実証事業

## ①ATWS開催成果とATの実績に関する調査(北海道におけるATの実態調査)

今後の北海道におけるATの振興に必要な方策の検討にあたり、その前提として北海道におけるAT市場の現状を把握するため、北海道を訪れているAT旅行者のプロフィールや、消費規模等ATによる経済効果について調査・分析を実施した。

### 調査の概要

実際に北海道を訪れたAT旅行者を対象に、AT旅行者の消費動向や趣味・趣向を把握するため、旅行の詳細（属性、日数や目的、訪れたエリア、消費額等）や、どのような魅力を感じ北海道を訪れたか、どのような商品があれば再訪したいと思うか等について調査を実施した。あわせて、北海道を訪れて満足した点や改善点、ATを目的に次回訪問したい国等、今後の北海道・日本のATの振興に必要な情報についても調査した。

その上で、AT旅行者以外の来道外国人旅行者の旅行内容や消費額等を比較し、ATの市場規模の把握、ATとAT以外の旅行形態の比較分析を実施した。

#### 〈前半調査〉

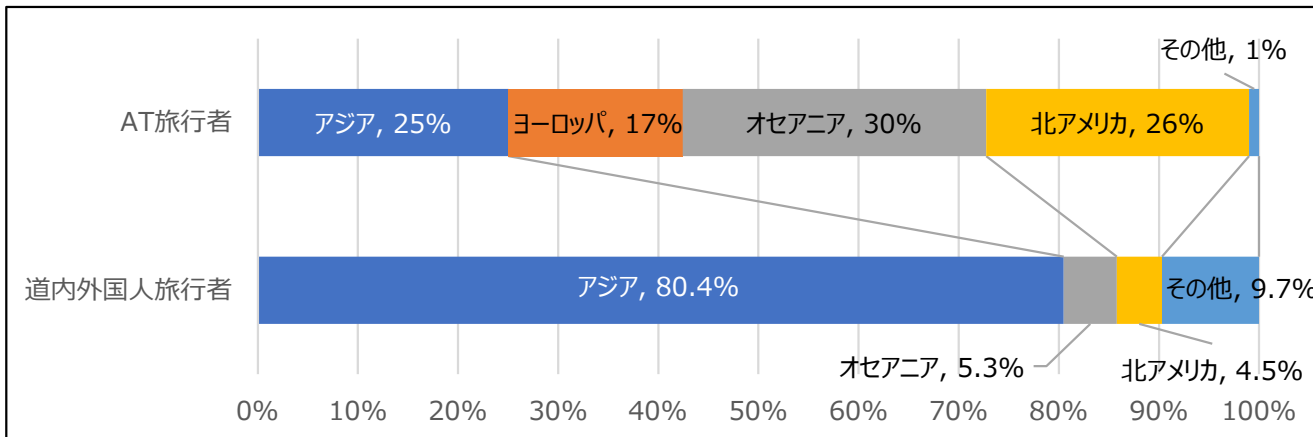
- 調査方法 旅行会社経由によるアンケート（WEB形式）
- 調査対象期間 令和5年9月～令和6年8月
- 調査実施時期 令和6年9月～令和6年2月
- 回答件数 78件

#### 〈後半調査〉

- 調査方法 さっぽろ雪まつり会場内と新千歳空港内での現地ヒアリング
- 調査対象期間 令和6年9月～令和6年11月
- 調査実施時期 令和6年9月～令和7年2月
- 回答件数 169件

### 調査結果（AT旅行者と道内外国人旅行者の属性や旅行形態等の比較） ※報告書より結果の一部を抜粋

#### 〈国籍〉

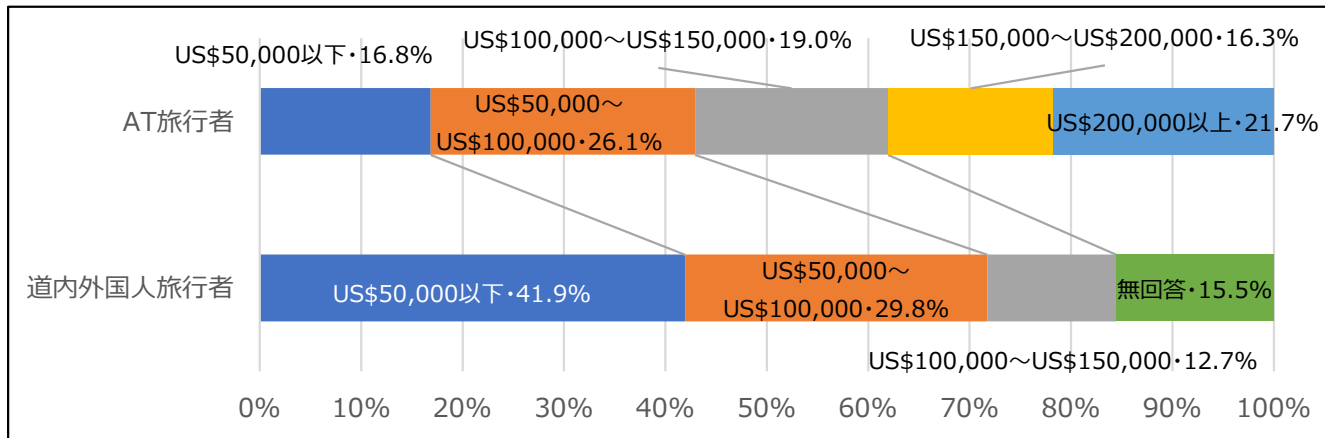


▶道内外国人旅行者はアジアの旅行者が約8割を占める一方で、AT旅行者は欧米豪の旅行者が約7割を占めており、旅行者の国籍に大きな違いが見られた。

# 令和6年度 ATの定着・さらなる活性化に向けた実証事業

## ①ATWS開催成果とATの実績に関する調査(北海道におけるATの実態調査)

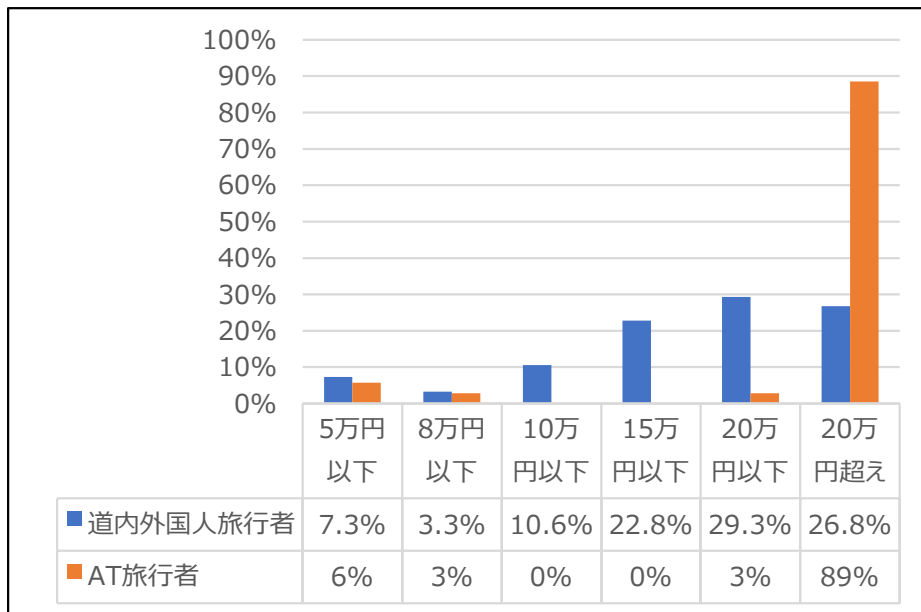
### 〈世帯年収〉



▶道内外国人旅行者の世帯年収はUS\$100,000以下が約7割を占める一方で、AT旅行者の世帯年収はUS\$100,000以上が約6割を占めており、特にUS\$200,000以上も2割以上存在することから、**AT旅行者は経済的余裕のある旅行者が多いことが確認できた。**

### 〈市場規模〉

#### 〔旅行会社手配におけるツアー全体の一人あたりの金額〕



#### 〔個人手配における北海道滞在中での平均消費額〕

属性	金額
AT旅行者	432,090円
道内外国人旅行者	128,678円

▶旅行会社手配におけるツアー全体の一人あたりの金額について20万円以上と回答したAT旅行社は約9割と、道内外国人旅行者の約3倍であった。個人手配においてもAT旅行者による北海道滞在中の平均消費額は道内外国人旅行者の3倍以上の消費額となっており、**ATが地域経済への波及効果の大きい旅行形態であることが確認できた。**

# 令和6年度 ATの定着・さらなる活性化に向けた実証事業 ②ガイド等人材育成を強化するための方策の実証

ATWS2023では北海道・日本に好意的な評価が寄せられた一方で、ガイド能力、特に英語でのガイドングについて指摘が見られた。北海道ではAT先進地としてガイドを育成しつつあるが、まだ十分でないことから、ガイドの能力向上に向けた研修を実施し、その手法について検証を行った。

## 事業概要

### 1. 研修前の事前準備

英語によるガイドング能力向上をに向けた研修の講師として、令和4年度「アドベンチャートラベラーの期待に応えるガイド育成実証事業」において、AT旅行者の期待に応えるための知見を集積したテキスト「A Guidebook for Adventure Travel Leaders in Hokkaidō」の作成に携わった有識者であるマーク・ブラジル博士、ブラジル・真弓氏を選定した。

本テキストを研修参加者に事前配布したほか、研修効果の向上を目的としたアイスブレイクと顔合わせを事前のWEBミーティングにて実施した。

〈研修参加者〉

現在ATツアーにおいて、英語を用いたスルーガイドとして携わっている者及びスルーガイドを目指しているアクティビティガイド等で英語による実務経験を有する者。

#### 【事前WEBミーティングの実施】

- 実施日時 令和6年12月18日(水)15時00分～15時30分
- 参加者数 10名（研修参加者の一部、講師及び主催者側スタッフ）

### 2. ATスルーガイド研修 in 弟子屈の実施

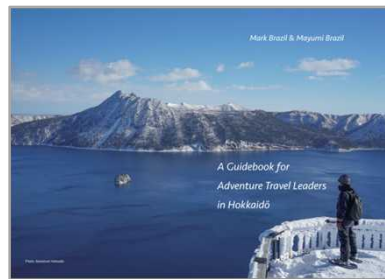
1.の事前WEBミーティングを実施後、3泊4日の行程で英語によるガイドングを能力向上を研修を弟子屈町にて実施した。

#### 【研修の実施】

- 実施日時 令和6年12月20日(金)～23日(月)
- 実施場所 弟子屈町
- 研修参加者数 8名

### 3. 課題解決に向けた方向性の検討

2.にて実施した研修の参加者に対してアンケート調査を行い、研修への参加はスルーガイドとしての能力及び英語によるガイドング技術の向上に繋がったかなど、その有効性を検証し、研修内容や研修実施主体に必要な課題解決に向けた提案などのとりまとめを行った。



AT旅行者の期待に応えるためのナレッジ集積・資料（A5版 36ページ）  
「A Guidebook for Adventure Travel Leaders in Hokkaidō」



研修の様子

# 令和6年度 ATの定着・さらなる活性化に向けた実証事業 ③ATの裾野拡大に向けた方策の実証

北海道は日本の中でAT先進地としての地位を確立しつつあるが、その一方で北海道の気候的特性から繁閑差が大きく、ガイドが安定的な収入を得にくいなど人材確保の観点で支障となっているほか、新規需要の開拓も重要であり、これまでATに強い関心を抱かなかった層へのアプローチも求められている。そこで、ATガイドの収入の安定化も見据え、ATのハイシーズン以外（オフシーズン）でも販売・催行が可能な形でのATツアーのあり方のひとつとして、ATの要素を取り入れた企業研修のプログラムを作成・実施し、その結果を分析することで検証を行った。

## 事業概要

### 1. 北海道アウトドアリーダー養成研修の実施（企業研修に対応できる人材を育成）

ATの観点及び人材育成・企業研修の観点の両方に知見を有する者を講師として選定し、企業研修の運営に求められる人材の研修を実施した。

研修では「判断（問題解決、意思決定）」「リーダーシップ」「ファシリテーション能力」「コミュニケーション」といったビジネスに求められる要素を、あらゆる野外指導に汎用性、一般性があり、全ての野外教育、キャンプ、環境教育、ネイチャーガイドなどの指導者が活用可能なWEA（Wilderness Education Association）の国際カリキュラムに沿った内容とした。

#### 【研修の実施】

- 実施日時 令和6年9月24日(火)～30日(月)
- 実施場所 国立日高青少年自然の家及びポロシリ岳周辺
- 参加者数 3名（アウトドアガイド、AT関係者団体等）

### 2. 企業研修（ビジネスパーソン養成研修）の実施

1.の研修によってATの要素を取り入れた企業研修の運営に求められる人材の基礎を習得した参加者が企業研修の運営スタッフの一部として参画した。

北海道内の企業の従業員を対象としたサイクリングによるATの要素を取り入れた企業研修プログラムを作成し、対象地域は、オフシーズンである10月下旬において晴天率及び平均気温が高く、降水量の少ないとされる十勝エリアとして実施した。

#### 【研修の実施】

- 実施日時 令和6年10月22日(火)～24日(木)
- 実施場所 十勝エリア
- 参加者数 7名（北海道内の企業の従業員）

### 3. 課題解決に向けた方向性の検討

2.にて実施した企業研修の運営スタッフに対して、アンケート調査を行い、ATを活用した企業研修のプログラムの有効性や改善点、オペレーション上の課題などを聴取した。また、研修参加者に対して、実施時期、日程、内容、研修効果などプログラムに対する評価を聴取した。これらを分析し、ATの要素を取り入れた企業研修の実施が、北海道におけるATガイドの繁閑差対策となり得るか、これまでATに強い関心を抱かなかった層へのアプローチとして有効であるか検証し、研修内容や研修実施主体に必要な課題解決に向けた提案などのとりまとめを行った。



北海道アウトドアリーダー養成研修（企業研修に対応できる人材を育成）の様子



企業研修（ビジネスパーソン養成研修）の様子